

サルナシの新変種ハマサルナシ

大 谷 茂*

A new variety, *Actinidia arguta* (SIEB. et ZUCC.)

PLANCHON ex MIQUEL var. *erythrocarpa*

Shigeru OHTANI*

(With 1 plate)

A new variety of *Actinidia arguta* is described here. This variety is characterized by the larger fruit, and becomes reddish-brown when ripe.

神奈川県三浦郡葉山町長柄, 森戸川上流の稜線付近 (35° 16' 40" N, 139° 37' 00" E; 海拔約 120 m) で, 篠田健夫氏が, 1978年11月3日 “サルナシ *Actinidia arguta* (SIEB. et ZUCC.) PLANCHON ex MIQUEL” を採集された。

一見したところサルナシそのものであるが, その後, これを詳しく調べたところ果実などに通常のサルナシと, やや異なる性質をそなえていることが判明した。

すなわち, この植物の葉柄の色はサルナシより鮮紅色が著明である。特に著しい特徴はこの植物の果実が広楕円形であり, 通常のサルナシでは長さ 2—2.5 cm, 幅 1.5—2.0 cm になるのに対して, この植物のそれは長さ (2.50—) 2.78—3.00 cm, 幅 (2.00—) 2.52—2.88 cm に達し, やや大形である。またサルナシの果実は通常熟しても緑色のままであるのに比し, この植物ではすべて鮮やかな濃いアズキ色となる。そしてこの植物の果実は熟すと甘酸っぱい香りが通常のサルナシよりも強く, 食してもより美味である。

篠田氏はこの植物を3年前から毎年観察されておられるので, これらの性質は安定しているといえる。

この植物の果実と葉柄などにそなわる性質は, サルナシに従来知られていなかった新しい変異と考えられる。そこで, この植物をサルナシの変種と認め, var. *erythrocarpa* S. OHTANI と命名記載した。和名は産地名にちなみ, ハヤマサルナシとした。

模式標本は横須賀市博物館 (YCM) に保存している。

Actinidia arguta (SIEB. et ZUCC.) PLANCHON ex MIQUEL

var. *erythrocarpa* S. OHTANI, var. nov.

(Plate 1)

A typo fructibus late ellipticis, majoribus, (2.50—) 2.78—3.00 cm longis, (2.00—) 2.52—2.88 cm latis, purpureorussis et petiolo saturatus purpureorubescens differt.

* 横須賀市博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238.

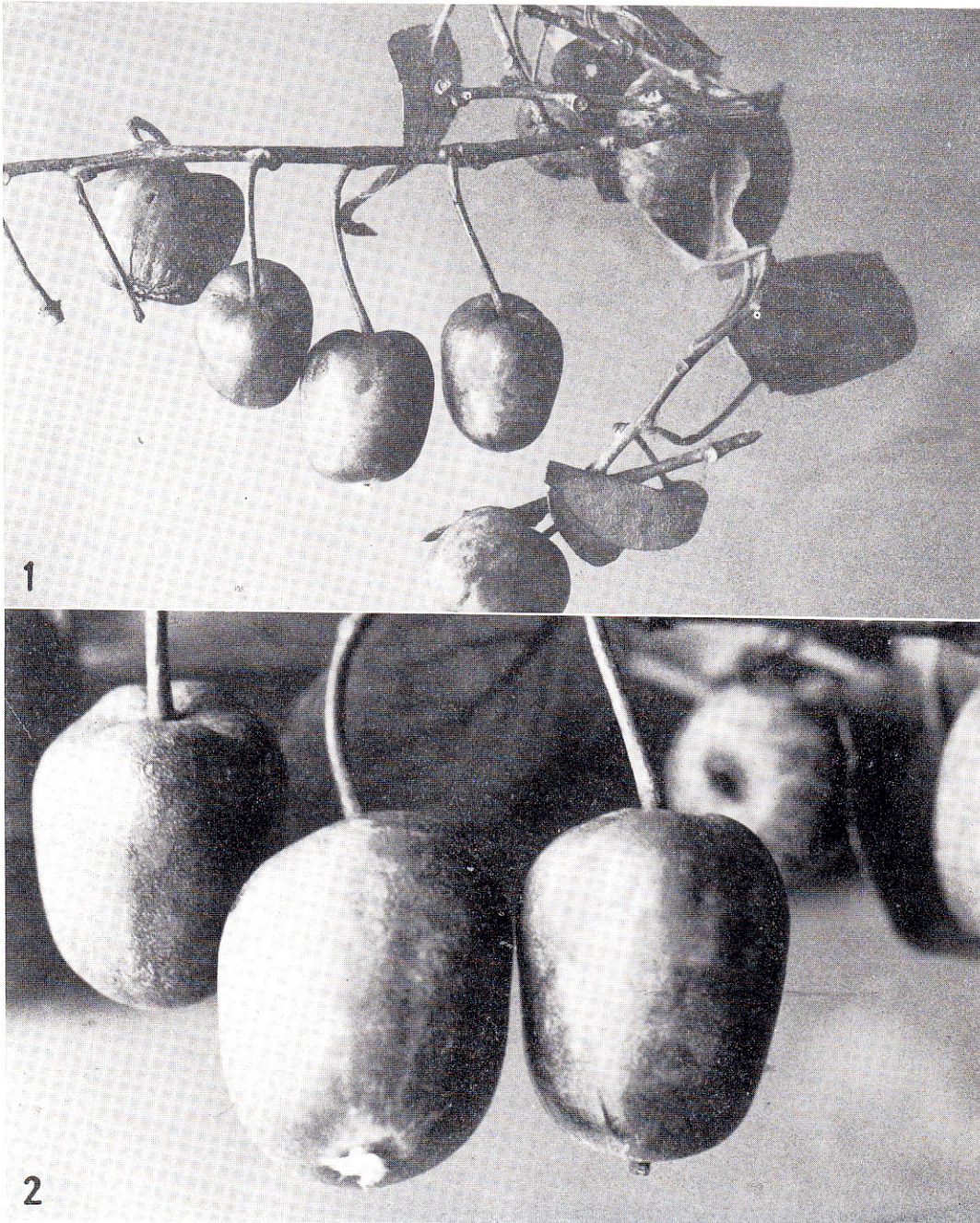
原稿受理1979年5月22日, 横須賀市博物館業績第277号.

Nom. Jap. Hayama-sarunashi (nom. nov.)

Hab. Japonia Honshu: Hayama, Miura-gun, Kanagawa Pref., (35°16'40"N, 139°37'00"E; 120 m alt.). Coll. Takeo SHINODA, Nov. 3, 1978. Typus in Herbario Musei Urbis Yokosukensis (YCM).

引用文献

大谷 茂 1979. 神奈川県植物分布資料 (9). 横須賀市博館報, (25): 1-6.



Explanation of plate 2

1, 2. *Actinidia arguta* (SIEB. et ZUCC.) PLANCHON ex MIQUEL var. *erythrocarpa*
S. OHTANI.

Photo by H. ISHIWATA.